

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



新作紙芝居「雨水のぼうけん」

デジタル版を作成

【箕面森林ふれあい推進センター】



© 森林ふれあい推進センター，矢放七海

箕面森林ふれあい推進センターでは、このたび、森林環境教育等に使用できる新作紙芝居『雨水のぼうけん』デジタル版を職員の手作りで作成しました。

この紙芝居は本編 15 枚で構成されたもので、森が水を貯め、きれいな水を育む仕組みを楽しみながら学べる内容となっています。

この物語は、小学生のユウちゃんが、おばあちゃんの家で飲んだ水がとてもおいしく感動し、なぜこの水がおいしいのか疑問に感じたところから始まります。

ユウちゃんが雨粒の妖精になって、森にふりそそぎ、木の葉っぱからスポンジのような森の地中に降りて様々な探検をします。その途中で、疑問の答えを見つけたり、森が水を貯め、きれいな水を育む仕組みなどを体験を通して学習し、地下水となっておばあちゃんの家のおいしい飲み水としてたどり着くという物語です。

© 森林ふれあい推進センター，矢放七海



© 森林ふれあい推進センター，矢放七海

森と水の関係についての学習は、小学5年の社会及び小学6年の理科で取り扱われているため、その補助教材としても最適ですが、小学校低学年の児童でもわかりやすい表現で統一されており、幅広い学年で使用できます。

当センターが取り組む森林環境教育に積極的に使用するとともに、当局ホームページ等で公表し、学校関係者や森林環境教育に取り組んでいる各団体に活用して頂くことを期待しています。

箕面国有林（大阪府箕面市）の特色を活かした、地域のNPO団体や教育機関と連携した森林環境教育（森林ESD）など地域の課題解決に向けた多様な活動

また、当センターでは、都市部に近接し観光や野外活動などのレクリエーション利用が多い箕面国有林（大阪府箕面市）の特色を活かして、地域のNPO団体や教育機関と連携した森林環境教育（森林ESD）、里山再生、森林の獣害対策など地域の課題解決に向けた多様な活動を行っています。



【R1.9.20「森の探検隊」（この木の年齢は？）】

特に、箕面国有林「エキスポの森」内で取り組んでいる「オオクワガタの棲（す）める森づくり」のフィールドを活用した、『森の探検隊』（ポイントを回りながら自然に関する質問を解いていく学習プログラム）を当センターで開発し、箕面市内の小学生や教員等に体験してもらっています。具体的には、子どもたちが学びたいと思うポイントを自分達で選び、問題に対する答え等を導き出していくことにより、理科・社会・算数・国語・道徳などを総合的に学ぶことができる内容となっています。

さらに、令和元年12月、箕面森林ふれあい推進センターは地域ESD活動推進拠点（ESDを支援・推進する役割を担う組織）として登録され、令和2年3月には、当センターの開発した森林環境教育プログラム『森の探検隊』が「土曜学習応援団」（文部科学省が運営する取組）のサイトに掲載されています。

今後、これらの登録をきっかけとして当センターの活動を積極的にPRしていきます。最後に、当センターでは、新型コロナウイルス感染リスクに気をつけるべく森林環境教育等の開催に当たっては、「新しい生活様式」の実践をはじめとした感染拡大防止策を講じた上で取り組むとともに、新たな発想に基づきウェブ授業等に対応できるソフト作りにも取り組んで参ります。



【R1.9.20「森の探検隊」（池に何かいるよ!!）】

キンモクセイの香る秋空の中「カブトムシ里親まつり」を開催しました。

【箕面森林ふれあい推進センター】

10月11日(日)、親子4家族15名の参加者を迎え、箕面エキスポの森で「カブトムシ里親まつり」を開催しました。

このイベントは、箕面森林ふれあい推進センターが7月に公募した「森林ふれあい推進事業」に応募されたNPO法人クワガタ探検隊と共催で開催したものです。

当日は、すがすがしい秋空の中、高山所長から歓迎の挨拶を行った後、創作紙芝居「エキスポ森のサンバ」を西美和氏が熱演し、参加者は熱心に聞き入っていました。



【紙芝居の上演】

上演の後、「オオクワガタの棲める森づくり」として整備している森を、西義史氏の解説を聞きながら森林散策を行い、森の中に設置してある昆虫ベッドにたどり着きました。子供たちが楽しみにしていた、本日のメインイベント、カブトムシの幼虫探しです。指導者の西氏からは、「この昆虫ベッドにはコクワガタ、ミヤマクワガタ、カブトムシ、コカブトムシの幼虫がいます」との説明があると子供たちは夢中になって、幼虫を探し始めました。西氏から「カブトムシの雄と雌の見分け方が解る人」の質問に、すかさず「雄はおなか側の下部にV字があります」と答える昆虫博士さながらの子供もいて、将来が楽しみです。幼虫が見つかるたびに歓声が上がりました。親御さんも子供と一緒に探す様子を見て微笑ましく感じました。



【昆虫ベッドの説明】



【幼虫探し】



【見つけた幼虫】

今年は天候が不順だったことから、カブトムシの幼虫はあまり見つかりませんでした。西氏が自宅で養育している幼虫も含めて、参加者家族は、ペアのカブトムシの幼虫を自宅で養育することとなりました。中には、見つけたミヤマクワガタの幼虫も自宅で養育するため持ち帰る家族もいました。

参加者全員で、三密を避けて各家庭で持参した昼食を楽しみ、自己紹介を交えながら秋を満喫しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、これまで、予定していた行事はすべて中止となっていました。ようやく感染症対策を行ってのイベントにおいて、参加者の満足した笑顔が見られ、スタッフも安堵して帰路につきました。

参加者が自宅に持ち帰ったカブトムシが無事に成長して、来年の初夏には成虫になることを願っています。



【参加者の集合写真】



林野庁 近畿中国森林管理局
箕面森林ふれあい推進センター

ダイヤルイン：050-3160-6745
FAX：06-6881-2055
メールアドレス：kc_fureai@maff.go.jp

〒 530-0042
大阪市北区天満橋 1 丁目 8-75
近畿中国森林管理局庁舎 2 階

